

活動報告

Activity Report

Vol. 4



2011年4月27日(水)・28日(木) 2011年度プロジェクト科目 学生担当者説明会



2011年度が始まったばかりの今出川、京田辺両校地において、プロジェクト科目のリーダー、サブリーダー、会計担当者、CNS (Communication Networking System) 担当者、そして学生成果報告書担当者を対象に、説明会が行われました。今年度初めてプロジェクト科目を受講する学生も多く、説明会の参加者はフレッシュな顔ぶれとなりました。正課科目としての枠組みの中でプロジェクト活動していくうえで、授業運営費やツールをいかに活用していくかは、受講生次第です。今年度、それぞれの活動に期待します。

2011年6月4日(土) 2011年度 大学間合同成果報告会

PBL (Project-Based Learning) 型学習に取り組む東京電機大学、専修大学、法政大学、同志社大学の4大学が集まり、大学間合同成果報告会を東京オフィス大セミナールームにて行いました。今年度は各大学から、「レンタサイクルサービスの提案」(東京電機大学)、「fraction -フラフラしてブルブル 寄り道ナビゲーション-」(専修大学)、「ジュエリーの新規顧客開拓」、「ViBlink (LEDライト)の商品企画と販促戦略」(ともに法政大学)、「『スポーツイベント開催!』学生と地域の連携によるスポーツクラブ」そして「花で生きる力を高める一花を活用する生活と社会活動の企画実践プロジェクト」(ともに同志社大学)の6テーマについて、合計15名の学生が報告を行いました。取り組む分野の違いがあっても、互いの報告に対して鋭い質問や意見が相次いで投げかけられ、報告、質疑応答とも学生主体で進行されました。発表に終始するだけでなく、報告会を通して自己評価をする様子も見られ、自分達が主役となって進めたPBL型学習の経験を活かした学びの場となりました。



2011年6月5日(日) 大学教育学会第33回大会

桜美林大学で開催された大学教育学会の第2日目、「学生・職員と創る大学教育・FD の新発想」をテーマとしたラウンドテーブルにおいて、山田和人PBL推進支援センター長、2010年度プロジェクト科目受講生2名、そして職員1名が発表を行いました。受講生は自分達のプロジェクトの成果、職員は事務局として受講生の活動を支援する側からの発表となりました。受講生にとっては、学内の発表とは違う雰囲気の中、少々いつもと相手が違い緊張した様子でしたが、各学期末の成果報告会や、大学間合同成果報告会での発表を経て、今回、さらに目を見張る成長ぶりを見せてくれました。

2011年6月13日(月) 2011年度プロジェクト科目 春学期プロジェクト・リテラシー講習会

昨年度に引き続き、株式会社内田洋行およびパワープレイス株式会社のご協力のもと、京田辺、今出川両校地で「伝える技術について～ポスターセッション～」と題した講習会を開催しました。参加者の中にはポスターセッションを初めて経験する学生も多く、事例写真を見ながら行われた具体的な説明に、真剣な眼差しで聴き入っていました。続くワークショップでは、グループに分かれて同一テーマでポスターを作成、発表を行いました。限られた時間でしたが、受講生からは、「話すたびに工夫し変化させて説明できる」「発表の難しさを痛感したが人との関わり合い等、その楽しさに気づくことができた」といった声が聞かれました。聴衆に合わせた発表ができる一方、聴衆のリテラシーの把握の重要性など、学んだことを自ら体験することにより、ポスターセッションの良さや難しさ、春学期成果報告会へ向けた課題などを見つけて出せたようです。講習会で得られた知識は、今後の学生生活や社会人となった後、様々な場面で活かされる事と期待します。



2011年7月6日(水) 2011年度プロジェクト科目 春学期学生懇談会

2011年7月13日(水) 2011年度プロジェクト科目 春学期SA・TA懇談会

2011年7月30日(土) 2011年度プロジェクト科目 春学期科目担当者・代表者懇談会

授業の合間の昼休み1時間を利用して、学生懇談会およびSA・TA懇談会が開催されました。学生懇談会では、参加者からチームを1つにまとめる難しさについての意見が最初に出されたのをきっかけに、メンバー数に関わらず各プロジェクトで共通した課題について話し合われました。また、SA・TA懇談会では、自分がどういう立場でプロジェクトに関わるべきなのか、互いの意見を興味深く聞く様子が見受けられました。今回は例年以上に次々と発言が繋がり、両日とも、非常に内容の充実した懇談会となりました。科目担当者・代表者懇談会においても、教員側からの率直な意見が相次ぎ、全会を通して今後の運営改善につながる貴重な時間となりました。



2011年7月22日(金) 2011年度 第1回市民公開型教職員協同講習会



2009年度、2010年度と好評の講習会です。2011年度は、プロジェクトを進めるにあたって必要な要素の中から、「リーダーシップ」「チームビルディング」「著作権」をテーマに、第一線で活躍中の講師の皆さんから全3回に亘って学んでいきます。第1回目はコミュニケーション会社代表取締役である山元賢治氏を迎え、「プロジェクトにおけるリーダーシップ」をテーマにご講演いただきました。平等ではなく公平であること、変わらないものと変えていくものを見極める等、テンポよく随所にキーワードを盛り込んだ山元氏の講演に会場はたちまち惹き込まれました。本学学生を中心とした約50名の参加者からは、講演の後、現在リーダーとして悩む学生の質問が続き、プロジェクトのメンバーが時間を作らないことに悩むなら、目的意識の設定をし、リーダー一人で抱え込まずメンバーにその憤りを伝えること等、的確なアドバイスを得ることができました。今後の開催については、当センターホームページ(最終面参照)にてご案内しますので、是非ご参加ください。

2011年7月24日(日) 2011年度プロジェクト科目 春学期成果報告会

京田辺・今出川校地開講の22科目が集まり、春学期成果報告会が行われました。当日は京田辺校地でのオープンキャンパス開催日でもあり、プロジェクト科目関係者に加え、一般の方も多数来場されました。春学期・秋学期連続科目19による中間報告および春学期科目3つの最終成果報告が行われ、各ブースでは趣向をこらしたポスターや展示物を用い、自分達の活動内容を熱心に説明していました。教育支援機構副機構長、全学共通教養教育センター所長、教務主任連絡会議委員、プロジェクト科目検討部会委員から成る審査員からは、「最終目標が決まっていないプロジェクトが多すぎる」「春学期末の時点で、最終目標のどこまで達したのか、自分はどう貢献したのかわからない」「同じプロジェクトでも発表者間で理解の違いがある」といった辛口の指摘もありましたが、そこには受講生の成長を促すため、教育者としての深いまなざしを感じました。今回ほとんどのプロジェクトが中間報告であったこともあり、審査委員の講評をどうプロジェクト活動に反映し、成果に結びつけていくのか、これから年度末に行われる最終成果報告会までの間の各プロジェクトの活動に、大いに期待したいと思います。



会場での投票の結果、下記のとおり受賞プロジェクトが決定しました。

■最優秀賞:ものづくり・人づくり(中間報告)

■優秀賞:「京都企業の優秀なDNAを探ろう」(最終報告)

■特別賞:エコタウン実現プロジェクトーエココミュニティの形成を目指してー(中間報告)

【プロジェクト科目活動紹介～ブログより～】

2011年6月から7月上旬にかけて、プロジェクト科目ブログに掲載された記事を一部抜粋してご紹介します。

●京都土産から学ぶ商品企画



私たちは19名で活動しています。マーケティングを学びながら、4つのグループに分かれてそれぞれの班で新しい京都土産の商品開発を進めています。最初に各班で市場調査を行い、実際に京都土産について見聞きするところからこのプロジェクトは始まりました。それをもとに、どんなターゲット層でコンセプトはどうするのかなどを決め、2回の試作時期を経て、現在に至ります。初期段階から考えたモノ(お菓子)が試作として形になった時のドキドキ感は忘れられません!

春学期だけのプロジェクトなので時間もそう多くあるわけではなく、授業時間外で集まることもしばしばですが、その分だけ班のメンバーと仲良くなれたり、議論を深めたりすることが出来ていると感じています。

(社会学部3年次生 佐藤菜美)

●同志社のリベラルアーツとスポーツマンシップ

私たちのプロジェクトは、スポーツマンシップや同志社のリベラルアーツとは何であるかを考え直すところからはじめました。プロジェクトメンバーは全員スポーツ経験者です。スポーツをする中で「スポーツマンシップ」を耳にする機会は多いです。しかし、改めて何かと聞かれるとハッキリ答えることができる人はいませんでした。そもそもスポーツ指導者から教えられたことがなかったことに気がつきました。近年スポーツマンにおける暴力事件や大麻事件、飲酒などの事件が多発しています。それはスポーツマンが持つべきであるスポーツマンシップが欠如しているからではないかと考えました。トップアスリートの方やスポーツ指導者、神学部の教授をゲストスピーカーにお招きし、スポーツ界の現状や教育現場で実際にスポーツマンシップを教えているかなどお話をお聞きしました。その上で私たちなりのスポーツマンシップの定義を導き出し、スポーツマンシップの必要性やスポーツマンにスポーツマンシップ浸透させるプログラムを考えています。

(商学部4年次生 小林美峰)



●花で人をつなぐ!～介護、支援の場で新たな取り組みを考える～



2011年6月23日、世界遺産の一つ、奈良県の吉野へ、PJ科目受講生三人を含め講師の方々等7人で行って来ました。目的は、主に2つあります。

吉野の桜の母樹の種をプロジェクト活動で利用させていただくため取りにいかせていただくこと、吉野山保勝会の方に吉野の桜に関する話を聞かせていただくこと、でした。今回の経験は、PJ科目受講生皆が参加することはできませんでしたが、自然の雄大さに触れ、感性を高める、そして桜という花を通して多くの人がつながりあっていることを知る、という点でとても良い経験だったと思います。ぜひ、この経験を生かして、今後のプロジェクトにつなげ、それと同時に人をつなぐ経験ができればと思います。

(文学部4年次生 水道博美)

●子供の成長に良い玩具の考察と企画

マーケティングの概論や具体的な玩具企画の手法といった基礎知識を学ぶことから始まり、春学期を通して「今ある玩具はどういったものか」「子供の成長に良いとは何か」の考察・調査を行いました。その調査の一環として、「子供の成長を考える上で子供の笑顔は大変重要である」という考えの上での子供の遊び調査を兼ねた「子供に笑顔を届けるボランティア活動」を行いました。

結果として子供だけでなく、玩具を手にする大人達の実顔も見ることができ、とても実りのある調査だったと思います。

秋学期では春学期で学んだ知識・これらの考察・調査結果を踏まえ、具体的な企画立案を進めていく予定です。

(生命医科学部4年次生 石田渉)



卒業生からのメッセージ



三宅 鮎美さん

【プロフィール】

2007年度プロジェクト科目「量から質への『京都型ニューツーリズム』の開発と流通」、2008年度「演劇で地域の子供達と学ぶ企画実践プロジェクト」受講生。2009年に同志社大学経済学部を卒業し、現在ゆうちょ銀行勤務。

「積極性」と「チームで動く力」—私がプロジェクト科目で身につけ、今社会で活かしている力です。

私は2007年度「量から質への『京都型ニューツーリズム』の開発と流通」、2008年度に「演劇で地域の子供達と学ぶ企画実践プロジェクト」を受講しました。前者では国土交通省のモニターツアーを企画させていただき、後者では同志社小学校の生徒と一緒に演劇を作りました。

自分の視野を広げたくて、一人で飛び込んでいった世界。初めは不安でしたが、リーダーになって、自分やメンバーの得意・不得意を見極め、周りを巻き込んで仕事を進めていきました。

現在、私は金融機関で働いています。金融機関は支店ごとが一つのチームです。仕事は窓口があれば渉外、総務とたくさんあります。理解のある上司に恵まれ、手をあげることで私は店舗の様々な仕事を担当させていただいています。最近は一通り全体が見えてきたので、どう上手く店舗運営を進めて行くか、という視点で物事を考える事が出来るようになりました。プロジェクト科目で身につけた「積極性」と「チームで動く力」が、今ここで生きてるように思います。

どの分野に進んでも、プロジェクト科目で身に付けた力は役に立ちますし、メンバーは社会人になっても刺激し合える仲間となります。これから後輩達が、大いに悩み苦しみ、そして楽しんで自分たちのプロジェクトを進めていくことを願っています。

同志社大学PBL推進支援センターの山田和人センター長によるコーナーです。今回は、2011年7月24日(日)に行われた、2011年度プロジェクト科目春学期成果報告会を終えてのつぶやきです。



PBLの評価の特徴は、評価のプロセスも自らのプロジェクト活動に含まれており、自己評価を通して他者評価を行うことができるよう学生が評価主体としても成長していくことにあります。学生が自らの人生を自分自身で設計していくことができるようになるためには、評価力を身につけていく必要があります。プロジェクトが迷走するのは、目先のことにとらわれて何をを目指しているのかわからなくなるからです。言い換えれば、個人もチームも自己評価を怠っているからです。評価力を鍛えるには、ふだんの活動を通して自己評価の機会を組み込む必要があります。自分自身の活動をモニタリング(観測・記録)し、リフレクション(振り返り)を通して、自己評価していくことです。CNSの個人活動記録を利用することもできます。自己評価なくして他者評価なしというのは、評価の基本かと思っています。成果報告会を通して、どこまで評価力がついたらと言えるのか、プロジェクトごとに検証してもらいたい。

山田センター長の
つぶやき